

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0043号
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流/ 平成19年11月26日

地に落ちた日本の民主主義・大連立の是非を問う!



補給艦「ときわ」の勇姿

去る十一月一日インド洋で約六年間、国際貢献の一環として給油活動を行なってきた海上自衛隊に撤収命令が出された。補給艦「ときわ」の艦内に「テロ対策特措法が期限を迎え、祖国日本に向けて進路をとる」断腸の思いで叫ぶ尾島義貴一等海佐の声が響き渡った。ある者は天を仰ぎ、ある者は茫然自失となり、またある者は無念さのあまり嗚咽を漏らした。国を守る、国益を守る、隊員たちの純粋な思いは無残にも打ち砕かれた。

仕掛けられた大連立 節操のない自民・民主両党首

海上自衛隊の国際貢献活動が、これをもって消えることとなり、まことに残念至極である。海自の一連の活動は、野党や一部マスコミが言っているような対米国だけのものではなく、テロ活動を未然に防ぐための国際貢献であり、日本にとつてはシーレーンを守るための国益に適う活動である。

これまで日本はアフガンの治安維持だけでなく、ODAを通して民生支援にも多大な貢献をしている。学校を修復して子供達の就学率を向上させ、病院を建設しケガ人や病人の治療にあたり、女性の社会復帰を促し地位向上に努めるなど、多くの面でアフガンに貢献してきたことは各国の認めることである。然るに民主党は、テロ特措法を政争の具にし、期限切れに追い込んだのである。各国が治安維持活動を展開する中で、日本だけが撤退することは、日本の国内事情を知らない他国民からみれば「敵前逃亡」と捉えることだろう。これでは数々の民生支援で積み上げてきた実績も水泡に帰してしまうこととなる。

国益を損なうことなど屁と

も思わず、国会を混乱させる小沢民主党党首の手法に行き詰まりを感じた福田首相は、最後の賭けに出た。

安易な発想・平成大政翼賛会

十一月二日、福田と小沢の党首会談が開催された。会談で福田は連立政権樹立を小沢に打診した。会談で何が話されたか推測の域を出ないが、「小沢を副総理にする。いや総理でも良い」と言ったとか言わないとか永田町の住民は喧しいばかりだ。だが火の無い所に煙は立たないのも事実である。何れにしても小沢は福田の提案を党に持ち帰り緊急の役員会で協議することとした。党内を取り纏めることができるかと信じていた小沢は衝撃的な意見が相次いだことに我が耳を疑った。「大連立は大政翼賛会的だ。世論の批判を受けて、民主党はとても持たない」鳩山幹事長の一言は小沢に計り知れない衝撃を与えた。大連立構想の第一ラウンド終了のゴングがなった。

直近の民意は参院選にあると公言していた小沢にとつて参院選で民主党に投票した国民の意思はどうでも良いことなのか?小沢の目指す民主主義とはその程度のものだったのか?この夜を境に民主党若手の小沢に対する不信感が増幅する一方となり、小沢の求心力は急速に低下した。



ポン助と解体屋の党首(頭醜)会談

福田は福田で何一つ法案が通らない壁にぶつかかり、何もできず、事態を打開するために限られた幹部だけで戦略を練り、密室政治を行なったことは決して許されることではない。卑しくも一国の総理が提案したことを野党党首に反故にされたとあつては求心力の低下は致し方ないことであり、指導力の欠如が明白となった。まさにポン助の面目躍如である。

上州のポン助と奥州の解体屋の安易な発想による平成大政翼賛会構想は、取り敢えず幕を降ろし、自民党は表向きは平静を保った。しかし民主党は大揺れに揺れた。お察しの通り小沢の辞任劇である。
醜態を晒した党首と執行部
四日午後、小沢は記者会見

で「党内の混乱を招いた責任をとる」として突然の辞意表明をした。民主党内は蜂の巣をつついたような大騒ぎとなった。菅や鳩山たちの幹部は平静を装い後継選出の協議をするが、何れも小沢に勝る者は見当らない。それにしても混乱を招いた責任をとって辞めたはずが余計に混乱を招いたのだから、とんだお笑い種である。

適当な後継候補が見つからないことから幹部たちは小沢慰留に努めた。小沢は勿体を付けて固辞したが内心は「思った通りだ。こいつ等を操ることなんか赤子の手を捻るようなものだ。もう少し恩を着せてから辞意を撤回してやるか」と推測する。案の定、小沢は舌の根の乾かぬうちに「慰留要請があり辞意を撤回しその期待に応えたい、政治生命を賭けて頑張りたい」と辞意を撤回した。まさに今泣いたカラスがもう笑ったのだ。

党首が頭醜なら幹部は患部だ。次の衆院選で民主党は政権奪取を目論んでいるようだが、国民の目は節穴ではない。こんなプツン党首と無能な幹部が実権を握っている党に日本の舵取りを任せるわけにはいかない。ならばやっぱり自民党なのか、と聞かれても素直に「イエス」と言えないところに国民の憂鬱がある。

仕掛け人の正体は元共産党員



老害人・渡辺恒雄

第一回目の党首会談が開かれる約二ヶ月前、小沢はナベツネこと渡辺恒雄・読売本社長に誘われ会食した。ナベツネから「お国のために大連立を」と訴えられた小沢は「民主党は参院選で国民に力を与えてもらった。衆

十月下旬、都内で小沢と森は顔を合わせた。森「首相もぜひ連立したいと言っている」小「アンタも本気か？」森「俺も本気だ」小沢も政治の停滞が続くことへの懸念を口にし、連立に対する意欲を滲ませた。ただ次の総選挙で政権交代を目指していた立場であり、党内の理解を得られるか不安も除かせた。こうしたやりとりの末、小沢は「そういう考えなら、首相から直接話を聞くのが筋ではないか」と伝えた。首相から党首会談の申し入れがあったのは、その直後だった。

ウイキペディアによれば昭和二十一年二十歳であったナベツネは共産党に入党して「天皇制に嫌気がさして」である。このことだけを取り上げてみてモネベツネという老害人の正体を見た思いがする。また昨年二月には「東條はヒトラーと同じ狂気の独裁者だ」と発言し、物議を醸したことがある。インドが独立できたのは東條英機閣下のお蔭である、と感謝状を送ったチャンドラ・ボース記念館とは雲壤の開きがある。

ナベツネが己の立場を弁えず政治に容喙したいと言うなら議員となつて活動すれば良い。それができないなら政治に首を突っ込むな、老醜を晒すな、それでも大連立をやりたいたいのなら、ジャイアンツとタイガースの大連立でも画策するが良い。元共産党員の老害人には、その方がお似合いである。 編集人・戸出蒼流

小沢氏の説明などによる党首会談に至る経緯

9月上旬	ある人 (渡辺恒雄・読売新聞グループ本社会長)	お国のために大連立を 現実に政権を担っている人が判断する話	小沢氏
10月下旬	福田首相の代理 (森元首相)	総理も「ぜひ連立したい」ということだ 総理から直接お話を伺うのが筋ではないか	小沢氏
10月29日	福田首相が民主党に正式に党首会談を申し入れ		
10月30日 1回目の党首会談 (2人による説明)	福田首相	大連立というのはどうか知らないけど、何か動かす方法を考えなければいけない 内外の理由から何とか協力してほしい旨の話があった	小沢氏
11月2日 2回目の党首会談 (2人による説明)	首相	新体制を作ることもいいのではないかとこの話をした。政策実現のための体制だ 福田総理との懇談の中で、連立を何とか組んでもらえないだろうか、というお話があった	小沢氏

許せないナベツネの横暴
以上が今回の三文芝居の顛末だ。国民不在の密室で党利党略、個別個別だけを優先して、軽薄な大連立構想に現をぬかした政治家の罪は、甚大だが、許せないのは民間人であるナベツネの横暴である。そもそもマスコミ人間は政治の批評をするのが仕事であり、政治の世界に首を突っ込み、自分の都合の良いように動かさそうとは思いますが、甚だしい。選挙で「民意」を問われることのない民間人が、やるべきことではない。ナベツネの仕掛けたことは越権行為であると同時に選挙民である国民を侮辱する行為にほかならない。



錦秋の清里